

宮澤・レーン事件を繰り返させないために 新たな「戦時体制」の到来を許さない！

1937年、日本はスパイ天国だとして軍機保護法が改定され、最高刑を死刑に引き上げ、何が秘密かを定める政府の裁量を広げました。1940年に国の情報事務の統一化を目的に「情報局」が発足。そして1941年12月8日、日米開戦の日、宮澤・レーン事件が起きました。誰もが知っていることを秘密だとし、それを親しかったアメリカ人教師レーン夫妻に漏らしたとして、弘幸は15年、レーン夫妻はそれぞれ15年、12年の懲役刑を受けたのです。弘幸は拷問と網走刑務所の厳しい生活で結核に感染し、1947年に27歳で死亡。

今、高市政権下で国家情報会議設置法が成立し、さらにスパイ防止法の成立が目論まれています。二度と宮澤・レーン事件の再来を許さないために共に学びましょう。

2026年7月11日(土) 14時～16時30分
(開場 13:30)

会場: 札幌北光教会 札幌市中央区大通西1丁目14 TEL011-241-3614

講演 「今、なぜスパイ防止法なのか？」

講師 齋藤 耕 弁護士 (自由法曹団)

特別報告 北大150周年に振り返る

「戦時下の北大の学生たちは？」

佐々木 忠 氏 (宮澤・レーン事件を考える会幹事)

講師 齋藤耕弁護士 プロフィール

2004年に弁護士登録。憲法、人権を守るため尽力。自由法曹団に所属して活動。

資料代 500円 問合せ メール migaku1110@gmail.com ☎090-1527-9009 奥井登代

なお、7月11日午前11時から円山墓地で北光教会主催のレーン夫妻の墓前礼拝が行われます。参加される方は問い合わせ先にご連絡ください。

主催 宮澤・レーン事件を考える会

共催 札幌北光教会宣教委員会

カトリック札幌教区正義と平和協議会